

iGHP セミナー

2015年に持続可能な開発目標(SDGs)が採択され、保健ゴールのターゲット3.8として「すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健医療サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを可能にする」ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)の達成が設定された。2019年には国連UHCハイレベル会合が開催されUHC政治宣言を採択、2023年にはフォローアップ会合及びSDGs中間レビューも予定されているが、UHC達成に向けた進捗には遅れが出始めている。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機とした健康安全保障への政治的な注目が改めて高まっており、UHCと健康安全保障を両立するバランスのとれた強靱かつ衡平で持続可能な保健システムへの投資が喫緊の課題となっている。本セミナーでは、2023年に開催予定のG7・G20・国連UHCハイレベル会合・SDGs中間レビュー等の政治的なマイルストーンに向け、このような課題に対するUHC2030やCoalition of Partnerships for UHC and Global Health等の国際的なUHC関連マルチステークホルダーによる取り組みを紹介する。



日程：2022年8月9日(火)
時間：17:00~18:30
形式：オンライン
講師：渡部明人氏
UHC 2030 事務局プログラム・マネージャー
テーマ：「2023年G7・G20・国連UHCハイレベル会合・SDGs中間レビューに向けた国際的なマルチステークホルダーの取り組み」
本セミナーは、事前参加登録が必要です。
[\(事前参加登録フォームはこちら\)](#)

略歴

渡部 明人 (わたべ・あきひと)

UHC 2030 事務局プログラム・マネージャー

北里大学医学部卒、国立国際医療研究センター総合診療医、バヌアツ共和国保健省公衆衛生医師(健康増進政策担当)を経て、外務省国際保健政策室で日本が二国間援助・国連外交においてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の推進を主導するための連携業務や世界健康安全保障等の課題を担当。

2015年に保健財政官としてWHOに採用され、2017年よりG7伊勢志摩サミットで日本が立上げをリードしWHO・世界銀行・OECDが共同で運営する官民公連携パートナーシップであるUHC2030事務局の職員。

現在は、プログラム・マネージャーとして各国にUHCを広めていくための啓発・説明責任・知見共有(国連UHCハイレベル会合・国連UHCの日・UHC政治諮問委員会・UHCコミットメント報告書・UHCデータポータル・UHC関連議員連盟支援)等の事業管理に従事。ロンドン大学大学院(LSHTM・LSE)より保健政策・計画・財政修士、順天堂大学大学院より健康増進・予防財政に関する政策比較研究で博士号を所得、現在欧州経営大学院(INSEAD)エグゼクティブ修士コース(チェンジマネジメント)所属。第5回北里国際貢献賞受賞。社会医学系専門医・指導医。

本件に関する問い合わせ先：

国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)

iGHP セミナー事務局 e-mail: ighp_seminar@it.ncgm.go.jp